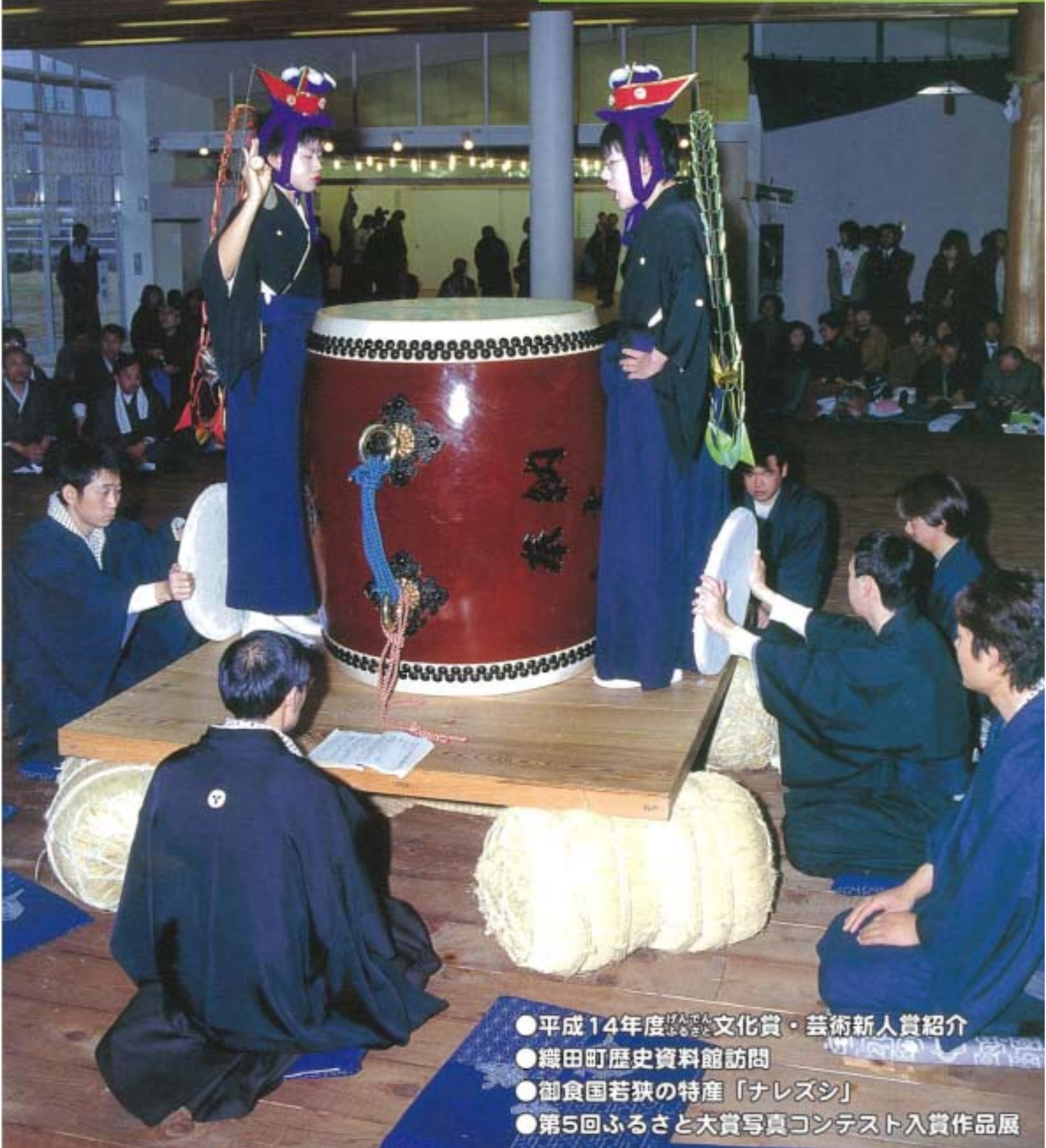


げんでん 福井 ふれあい

GENDEN FUREAI FUKUI

2003 第15号 SPRING



- 平成14年度げんでん文化賞・芸術新人賞紹介
- 織田町歴史資料館訪問
- 御食国若狭の特産「ナレズシ」
- 第5回ふるさと大賞写真コンテスト入賞作品展

- ・平成14年度(第4回)ふるさと文化賞
芸術新人賞受賞者紹介 P2・3
- ・織田町歴史資料館訪問(シリーズ11) P4・5
- ・高校文化活動をたずねて(最終回)
北陸高等学校放送部 P6
- ・みけつくに若狭(最終回)
餅食国若狭の名産「ナレズシ」 P7
- ・第5回ふるさと大賞写真コンテスト
受賞作品展 P8・9
- ・シリーズ6 福井の文学碑
児童文学者・詩人 山本和夫(小浜市) P10
- ・敦賀市立博物館所蔵絵巻跡上展10 P11
- ・伝統芸能シリーズ 睦月神事(清水町) P12
- ・財団シンボルマーク決定 P13
- ・平成15年度財団事業計画と収支予算 P13
- ・情報ファイル P14・15

表紙の説明

国指定重要無形民俗文化財

睦月神事
(清水町大森地区)

祭詞贈答を語る「土官取太夫」

清水町大森、加茂神社に伝わる「睦月神事」が、4年に一度の2月14日、天下泰平、五穀豊穡などを願って、同区の睦月神事会館などで、区民あがての予祝行事として奉斎されました。

当日午後、同会館で行われた多彩な奉納次第のうち相作や舞臺など「田遊び」の様子を模して「土官取太夫」が演ぜられます。

舞台は、4つの米俵の上に戸板。その中央に太鼓が据えられ、祭壇に向かって、太鼓の左に種蒔太夫、右に牛仕太夫が立ちます。太夫には、今年、中学2年の2人の生徒が当りました。太夫は餅り棒を持って合い向かい、棒を操作しながら、祭詞贈答を交互に語り合います。(睦月神事の詳細記事P12に取り上げました。)



ふるさとの日、功績をたたえ、ふるさと文化賞・芸術新人賞表彰式

文化活動は「みる・きく・
理解・協調」が大切

窪田さんを訪ねて、先ず開口一番「今回の受賞は、ふるさと」にすっきりとした重みと責任を感じました。50年近い「書」の道や文化活動を振りかえり、さらなる励みにしたい」と感激の言葉がかえってきました。窪田さんは、福井工業、福井高等工業と技術系の学

窪田 瑞穂氏
(鯖江市)

校に進みましたが、小学校時代から書道が好きで、卒業後、関西の小坂奇石先生に師事、いつしか専門の本業を離れ「書」に専念。日展への入選、鯖江市書道連盟の創設、市内公民館での書道教室の開講など、県内の書道界では特異なケースでの道を歩まれました。今日までの人生の中で一番大切にしてきたことをお尋ねすると、「昭和47年(1972)鯖江市文協委員長に就いた直後、心筋梗塞で倒れ、救急入院、九死に一生を得たことが大きな転機で、命の尊さと報恩の気持がその後の文化活動の支えになりました。「感謝」は

財団では、2月7日(ふるさとの日)、平成14年度げんでんふるさと文化賞・芸術新人賞の表彰式を日本原電敦賀地区本部会議室で行いました。前川財団理事長から受賞者一人ひとりに賞状、賞金、顕彰盾を贈り栄誉をたたえました。今回、受賞された5人の方々をインタビューしました。

私の信条「何事も

一生懸命やること」

私の信条です」と。さらに、「今後は、古典に立脚した書の調和と体部門に力点を置き、生きる喜びと書の良さを広めたい。文化活動では「みる、きく、理解、協調」を大切にした運動に徹していきます。」と心強い熱意の弁を伺いました。

北野 麗雪氏
(三国町)

北野さんには今日までの文化活動や人生の中で、最も大切にされてきたものは、お尋ねすると「何事も一生懸命やること。」「なぜか成る。なぜか成らぬ何事も、なぜか人の為さぬなりけり」と。茶・華道50年の歩みの中で貫いた信条と実践力の尊さをしみじみと語ってくれました。

北野さんは、女学校時代から茶・華道に引かれ、結婚されてからも一途この道を続けられ、華道では、池坊大学付設専門学校の

第4回

(平成14年度)

げんでん

ふるさと文化賞
芸術新人賞窪田・北野・金田
3氏を顕彰
浅井(器楽)・藤間(日本
舞踊)氏

受賞者の横顔

ふるさと文化賞

窪田 瑞穂 氏
(書道・文化運動)

昭和25年書家小坂奇石先生に師事、同31年日展に初入選、同38年鯖江市書道連盟を設立し初代会長、約50年間書道の研鑽と後進の指導、書道文化の向上発展に寄与。一方、鯖江市文協の設立に参画、同理事、同46年同市文協委員長(5カ年)、平成9年より再任し現在に至るまで同市文協の充実発展に大きく貢献。

鯖江市三六町 73歳

北野 耀雪 氏
(茶・華道)

茶道造州流、華道池坊の教授として40数年にわたり町内公民館などで師弟の育成指導に当たり、現在も遠州流福井支部理事長などを務め、教養文化の普及に尽力。一方三国町文協の常任理事など30数年間、文協活動の推進役として活躍し、平成12年度県文協地域文化功労賞を受賞、地域文化の振興に大きく貢献しました。

三国町 71歳

金田 久璋 氏
(民俗文化)

昭和初年頃から民俗学に取り組み、福井民俗の会、日本民俗学会に入会、20数年にわたり、県文化財指導委員、中国の調査委員を務め、国、県内の民俗文化財の調査・研究、普及運動に多くの功績をのこす。

現在も県文化財保護審議会委員、美浜町史編纂委員長などを務め、ふるさと文化の振興に大きく貢献。

美浜町佐田 69歳

芸術新人賞

浅井 裕規 氏
(器楽)

昭和62年、京都大学卒、金津高校武生高の両校吹奏楽部の指導者として、北陸、中部吹奏楽コンクールなどに出場、数々の優秀な成績をあげ、卓越した指導力を発揮。また、平成2年日本吹奏楽指導者協会優秀指導者賞をはじめ県連盟、北陸、中部連盟より数々の奨励賞を受賞、県音楽界の振興のため今後の活動が期待されます。

福井市助見3丁目 39歳

藤間 勢三朋 氏
(日本舞踊)

4歳の時から日本舞踊の門弟となり、17歳で名取、昭和62年教授の資格を取得、平成2年から丸岡町で師弟の育成・指導にも尽力。公演活動では、県内外の演習を越えた舞踏会、国民文化祭などに積極的に出演、立役、女形ともにこなせる技量を身につけ、平成12年度県文協新人賞を受賞、今後の活躍が期待されます。

福井市高木北3丁目 42歳

民俗学は、私にとって生き方そのもの

「私の民俗文化への出会いは、民俗学の師谷川健一先生(日本地名研究所長)に巡り合ったことが大きな支えとなりました。民俗学は私にとって生き方そのものと思っています。」と、金田さんは、郵便局に務める傍ら余暇を最大限に生かし、福井民俗の会などに入り、20数年間、国や県の民俗資料調査委員を歴任。県内外の民俗資料の

に通い専門分野を究められました。三国町内では30数年にわたり公民館や勤労少年ホームなどで、この道の講座を担当、また指導者の育成にも力を入れてこられました。町文協活動にも積極的に、町文化祭や祭礼などには茶席や華展を開催し、多くの人々から信頼を集めました。

現在、同町文協副会長などの要職にあり、今後の文化運動について抱負を伺いますと、「2年後には国民文化祭が開かれるなど福井に文化の新時代を迎えます。郷土の伝統文化を大切にしながら、若者の意欲を高めるふるさと文化の育成に役立ちたい」と。

全高総文祭福井大会を感動ある祭典に

浅井さんは、小学4年生の時、吹奏楽ク

現在、県文化財保護審議会委員や美浜町史編纂委員長などを務め、文化財の保存、継承などふるさと文化を高める活動に積極的に、今後の抱負を伺うと「人との出会いを大切に、公私にわたる郷土の民俗課題に一つ一つチャレンジしていきたい」と民俗文化への執念の言葉が返ってきました。



金田 久璋氏 (美浜町)

研究、調査に数々の実績と民俗文化の啓発に顕著な業績をのこされています。また、著作活動も意欲的で、平成10年「森の神々と民俗」昨年は「福瑞と雷の起源」を出版するなど地方に伝承された民俗事象を追究してこられました。



浅井 裕規氏 (福井市)

吹奏サークル活動にも熱心で、福井プラスアカデミー、福井文芸楽団の指導やトランペット奏者として活躍。今後の方針を伺うと「今夏の全国高校総合文化祭や平成17年の国民文化祭が感動ある祭典になるよう力を傾けたい」と力強い返事がかえってきました。

ラフでトランペットに出会い、中・高校でも吹奏楽部に、大学ではオーケストラ部に所属し、今日の音楽活動の基礎となったようです。

昭和62年、高校教諭として赴任。前任の武生高校、現在は金津高校の吹奏楽部の顧問を務め、県代表として出場した吹奏楽コンクールに多くの金賞をもたらしました。これらの指導力が認められ、日本吹奏楽指導者協会優秀指導者賞など多くの栄誉に輝

日本舞踊の魅力を生涯学習などで



藤間 勢三朋氏 (福井市)

「私が日本舞踊をすすめたのは、父が口くせのように「着物の似合う女性になってほしい」という願いが秘められていました。」4歳の時、藤間勢美三師匠の門弟となりました。昭和62年(1977)17歳で名取り、同62年教授の資格を得て、町公民館活動などで後進の指導にも力を注いでこられました。また、週一回の稽古場に通い、発表会などに備えた創作活動や舞踏家としての技量向上に磨きをかけています。

今回の受賞を契機に「若い人達が日舞に魅力を持てるような指導とあわせて生涯学習の一貫として高齢者の方にも十分楽しめる窓口を広めていきたい」と頼もしい抱負を語ってくれました。

織田町歴史資料館訪問

シリーズ / 11

戦国時代の名将織田信長の祖先を輩出したことで有名な格式ある御神社を中心に発展してきた織田町。また、日本六古窯の一つとして育まれた越前焼の織田。これらの古い歴史とロマンを追って、一昨年オープンした織田町歴史資料館を、春意動きはじめた2月20日、訪ねました。

織田町文化歴史館は、町歴史資料館、文化交流ホール、町立図書館の複合施設として構成されています。今回は、平成13年10月に開館した歴史資料館の常設展示部門を見学させていただきました。

資料館の展示は、御神社を中心に発展してきた織田の歴史、日本六古窯の一つとして有名な越前焼、その他様々な文化遺産が示す織田の歴史の3つの柱で展示されています。



御神社をモデルに設計された織田町文化歴史館外観

1 展示室

考古資料・御神社から
こころの里をみる

正面玄関から文化交流ホールを通り、歴史資料館の第一展示室に入ります。

入り口の右側壁面には、マークを押すとランプが点滅する織田町地形模型（縮尺3千分一）が置かれています。左側壁面には国宝で、御神社所蔵の御子寺の梵鐘の写真と構造図が展示され、「御子寺鐘神護景雲四年九月十一日」（西暦770年）と

館内案内



まず、考古資料コーナーでは、「織田のあけぼの」「豪族の誕生」「律令時代」「焼物の里・織田の誕生」と、時代の推移に従い、時代毎に分布図やパネル、出土品などで、織田の歴史を紹介しています。

考古資料から 織田の歴史を考える



原始時代からの考古資料コーナー

の銘文から神仏習合の様子がわかります。



開館時間	AM10:00～PM6:00(木曜日はPM8:00まで) 7/21～8/31 AM9:00～PM5:00 (土曜日PM7:00 木曜日PM8:00)
休館	月曜日(日曜日が祝祭日の場合はその翌日) 年末年始(12/28～1/3)

「織田のあけぼの」では旧石器、縄文、弥生の各時代の遺跡図や町内で出土した土器や石器などが並べられ、特に弥生土器の高塚が目されます。

「豪族の誕生」では、古墳時代の遺物や町内にある古墳の分布図や種類を地図やパネルで示しています。

織田の古墳群は沖田に面した丘陵上に約25基が築かれています。特に前方後円墳の存在はヤマト政権の支配下に当地も入り、有力な豪族が誕生していたことを物語っています。

「律令時代(白鳳・奈良・平安)の織田」では、越前の各部の位置を示すパネルが揭示され、当町域が、越前国敦賀郡伊部郷に属していたことを解説しています。また、織田盆地の平地には当時の耕地整理の跡である1町(約109m)四方の桑里地割が見られる地図や資料が展示されています。

「焼物の里の歴史」では、丹生の山間部で最古(約1300年前)といわれる小箱窯跡で瓦陶製窯(1号窯)と瓦窯(2号窯)が平成3年、緊急発掘調査が行われ、多量の瓦や須恵器が採取されたことが説明されています。また、小箱窯跡の全景や出土品が展示され、特に軒平瓦や軒丸瓦は、近江国(滋賀県)下の慶寺跡から出土した瓦と類似しており、当地域に存在した桑氏との関係が深いと考えられています。



小箱窯跡から出土された
軒丸瓦(径16cm)

劔神社の歴史から織田をみる

劔神社の歴史コーナーでは、先ず、「劔神社の由来」として「劔大明神略縁起」（複製）やその舞台をパネルで解説しています。「劔御子寺」では、同寺の本地堂が描かれた古絵画や全国的主要神宮寺を図示して、その歴史を説明しています。

「戦国大名朝倉氏と劔神社」では、劔神社所蔵の朝倉氏諸役免許状や禁制の古文書などを展示、当時の領地支配の歴史を知ることができます。

「織田信長の氏神・劔神社」では、信長の祖先が神官であったこと、信長は、同神社を氏神と仰ぎ、劔神社の領地を保護しました。これを証するものとして、神社所蔵の織田信長安堵状や織田荘において略奪や放火を禁じた禁制の古文書（複製）が展示されています。

劔神社は豊臣秀吉機嫌に逆らったため慶長3年（1598）、領地を没収され、多くの建物が焼き払われました。



織田信長安堵状（天正元年（1573）劔神社蔵）
（安堵状とは土地などの支配を保証する文書のことです。）



劔神社古絵図復元模型（左）と御幸大祭行列模型（右）

「劔神社と福井藩主・大野藩主」では、徳川の時代に入り、神社が再興を願い出、福井藩主、大野藩主が領地を寄進したことをパネルや古文書で説明しています。

劔神社古絵図 立体復元模型を展示

展示室の中央部には、劔神社古絵図復元模型が展示されています。この模型は、神社に古くから伝えられてきた古絵図をもとにして、江戸時代・明治時代の図面や現在の土地割りの状況、地名などを参考に製作したものです。また、壁面には室町時代後期の劔神社古絵図（写真）が掲示されています。

神社の祭礼では、御幸大祭行列模型が展示されています。この模型は昭和53年（1978）、神社鎮座1750年と国幣小社昇格50年を記念して行われた古式にのっとった「御幸行列」を復元しています。

劔神社の文化財コーナーでは、重要文化財に指定されている「八相違絵図」（写真）などが展示され注目されます。この図は、釈迦の亡くなった場面と、そのまわりに釈

迦の一生の様々な場面が書き添えた絵で、鎌倉時代に流行した釈迦への信仰を伝えています。

2 展示室 越前焼の歴史と わぎの里をみる

織田は、日本六古窯の一つとして有名な越前焼の産地です。中世以来、織田の発展を支えた重要な産業でした。

第2展示室では、入り口に、越前地方の



民家ソウマ

民家の内部を復元し、生活の場で貯蔵、調理員として活躍した甕、甕、すり鉢などの器を展示しています。

越前窯の発生と分布

織田町、宮崎村の各丘陵には、数多くの越前窯が発見され、その数は約200基以上といわれています。

昭和48年頃、天王川東側の宮崎村小曾原・武生市安養寺の須恵窯窯群に近接して平安時代末期の越前窯3力所が発見され、この地域が越前焼発生の場所であることがわかりました。その後鎌倉時代以降に越前窯は宮崎村古屋・熊谷などへ移り、室町時代後期には織田町平等の丘陵一ヶ所に集中し大古窯群を作り現在まで焼き続けられてき

ました。

越前焼の生産の拠点の一つである平等大釜屋古窯群に作られた「岳の谷一窯」は、全長約25m、最大幅5・5mの大窯で、一度に中窯と重を62個つづ、すり鉢1200個を焼成することができる巨大焼物工場でした。

増産体制の整った大窯で作られた甕や器は、越前海岸から船積みされ、北海道南部から黒根峠までの日本海沿岸各地へ運ばれました。



越前焼の歴史コーナー

近代の織田の窯業をみる

「明治・昭和の職工たち」では、明治中期に「葵園」を築いた古田長兵衛氏の販路拡張活動や陶磁器徒弟養成所の開設、平等陶磁工場などの関係資料や写真が展示されています。

このほか、織田焼の新しい方向を示した陶器品などが展示され、わぎの里・織田を支えた新しい歩みを知ることができます。

高校文化活動をたずねて

【最終回】

北陸高校
放送部

いよいよ今年の夏に迫った第27回全国高校総合文化祭福井大会の成功を目指し、県内高校生の文化活動に取り組む姿を紹介する「シリーズ最終回」として放送部門を選び、北陸高等学校放送部を訪ねました。

1月23日、午後4時半頃、同校放送部顧問の野村勉先生の内話をいただき、同校本館2階にある放送室を訪ねました。

5時頃、放送部全員が集い、3月に開かれる福井放送大会発表発表企画（「THE・放送」）の打合せを始めることになっています。時間を割いていただき、野村先生と同部部長（2年・近松温子さん）から同校放送部の活動振りを伺いました。



放送部門
マスコットキャラクター

同放送部の発足は、10数年前で、映画研究部の活動を引き継いだのが始まり。現在の放送部の部活の形態になったのは、平成に入ってからで、現在の部員は1年と2年生の10名で構成されています。

活動を大別すると構内のイベント行事の運営と校外イベントの参加活動に分けられます。特に、今年は8月に行われる全高総文祭の放送部門で生徒実行委員会の委員長（同校2年・藤田恭輔君）を担当していることもあり、県内高校と協力体制を組み全国大会への企画・運営準備に当たっています。放送部の活動は、朝、校内放送から始まり、放課後はアナウンスや朗読部門の練習、番組制作と技術的にも多様な取り組みをこなしています。

今までに、「おもちゃ箱」「福井病院とんぐり学級」でのボランティアにも参加。「武生のはぐるま太鼓」や「虹の会のフェスティバル」「子供達のフェスティバル」「杉原千代夫人の命ピザ」等の取材、司会や会場で上映する映像の制作を行い、さらにこれらの体験番組に取り組みなど活発な活動を続けています。また、高校生だけで運営される放送大会の企画などは、他の高校生の参加により、同校の仲間と交流の

北陸高校放送部のモットーは、「日本語を大事に!」「他人事は私事として!」「校外(社会)で感じた事を校内に!」を3本柱にしています。私としては、放送部の活動を通して、卒業時に「自分探し」の答えが見つかる事を望んでいます。今までの卒業生は、何らか



放送部顧問
野村 勉先生

大いなる発想をもつ
若者に期待

顧問の野村先生に、放送部のモットーなどについて、放送部長の近松温子さんに部活の抱負などを尋ねてみました。



全高総文祭で放映するビデオ作りで詩人の横万智さん(左)にインタビューする藤田恭輔君(北陸高校2年)ら=東京・南青山

の形で自分を発見して社会に出ています。中には、放送業界に進んでいる者も数多くいます。生徒たちが、歴史を超え、大いなる発想を持つ若者として、沢山現れてくれることを今後も期待しています。

様々の体験の中で
楽しく活動したい

皆さんは放送部にとどのようなイメージをお持ちでしょうか?ちょっと暗い部屋で細々活動しているのでは?なんて思っていますか?私も入部前は少なからずそんなイメージをいただいていた。しかし放送部ってなかなかすごいんです!

北陸高校の放送部の一日は、まず朝の発声練習から始まります。その後朝の校内放送・昼の放送、そして放課後はアナウンス、



放送部長
近松 温子さん

朗読の練習や番組作りをしています。その他に今年の8月に行われる全国高校総合文化祭の企画や、「THE・放送」という高校生だけによって運営されている放送大会の企画など、校内だけにとどまらず、たくさんの体験活動をしています。

放送部に入って様々な体験をする中で、たくさんの方々と出会ってきました。そしてその中で様々な貴重なお話を聞きました。今まで放送部で学んできたことを忘れず、これからもみんな楽しく活動して行きたいと思っています。



番組制作で打合せする放送部員たち=北陸高校放送室

第5回「ふるさと大賞」写真コンテスト(テーマ「ふるさと」の四季といとなみ)に155人の方々から398点の作品が寄せられました。1月9日、審査会を開催。ふるさと大賞1点、ふるさと賞2点、優秀賞4点(以上作品誌上紹介)入選26点、佳作28点が選ばれました。

テーマ

ふるさと四季といとなみ

大賞



「境内」
橋本 洋子氏(福井市)



ふるさとを生き生きと感じさせます。西雲寺のしだれ桜の境内に鶏がとび歩き、犬が番をしている風景は輝煌を感じさせます。

福井県内でも珍しい場面をとらえ、大賞にふさわしい作品に仕上がっています。

鶏の位置、犬の表情、その場面の光線状態、背景のしだれ桜と鐘楼、ふるさとの雰囲気すばらしいシャッターチャンスでとらえています。

(講評/八木 隆)

一般の部



福井県一の豪雪地・勝山市北谷地区は、一日に1メートルも積もるところで撮影も大変です。写真は少し暗いですが、生活を感じさせる写真です。人の着ている赤いカッパがポイントになっている自然と暮らしのある秀作です。

(講評/水谷内健次)

「雪下ろし」
大岸 三郎氏(丸岡町)

ふるさと賞

女性の部

「お水送りの日」

寺尾 美代子氏(福井市)



春を呼ぶ福井の代表的な「お水送り」を今までとは、また違ったカメラ位置から実に見事にとらえています。炎のあかりだけで社殿を表現し、幻想的な世界を作り出せる作者の技量の高さが、見る人の心を引き付け、ふるさと賞にふさわしい秀作です。

(講評/奥村広文)

審査総評

「ふるさと」の四季といとなみ」の姿がいろいろな角度の写真で描かれた、素晴らしい写真が多く集まりました。作品を大別すると風景・人・祭の3種類に分かれて撮影されていました。撮影者の撮影技術はもちろんですが、過去4回の応募作品と違い、作者のふるさとに対する考えが重要な審査対象になりました。

今回のテーマ「ふるさと」の四季といとなみ」は人間の表現に重きをおき、シャッターチャンスが優先される審査になりました。審査の結果、今回は女性の部が対象に決定いたしました。この作品はふるさとに対する作者の思い入れが適切に表現され、また、撮影技術も良く、すばらしい作品に仕上がっています。全体的に見て、女性の部の作品が非常に良くなり、写真撮影においても男女の差はなくなつたと言つても良いと思います。次回も「ふるさと」を大事にした撮影を期待しています。

(八木隆)

◆審査委員◆

(敬称略)

審査委員長	八木 隆	写真家
	奥村広文	福井フジカラー 取締役社長
	谷口恒夫	福井新聞社 写真部長
	野田調生	福井県立美術館学芸員
審査委員	水谷内健次	写真家
	前川剛夫	当財団理事長
	水野政明	日本経済新聞社福井地区本部副部長

詩人
児童文学者

山本和夫 (小浜市)



この村は／十二月にはいれば大雪
となり／六月が来れば／花を盛った緑
の谷です／フキの葉っぱもひな鳥とな
って／びよびよ／秋ともなれば／つぶ
らな木の葉のマーケット／村のはずれ
には／古ぼけた地蔵様が／雪や風や雨
にさらされています／この村は私に／
星に乗って青い大空を旅することを
／教えてくれました／ひとりでも喉るこ
を／教えてくれました



童話作家で詩人の山本和夫の詩碑が、生
まれ故郷の小浜市門前の明通寺境内に建て
られています。

山本和夫は、昭和20年(1945)終戦の
年から数年間、ふるさとに帰り、日本の敗戦

詩碑

『花のある村』の序詩「青の村」を刻む

の挫折から立ち直ろうとする青年達を集め
て文化運動を展開しました。その当時参集
した人々が中心となり、有志50余人が発起
し、彼の詩集をたたえ、後世に伝えようとモ
ニュメントを計画。昭和50年(1975)詩
碑が完成し、同年11月23日、本人の出席を得
て、除幕式を執り行いました。

碑の詩文には、詩集『花のある村』の序詩
「青の村」の二部(上記のとおり)が本人直筆
のペン字を拡大して刻まれています。

碑の設計・逆W型の
斬新なデザイン

この詩碑の建立に当たっては、発起人代表の
吹田安兵衛氏(当時福井県教育委員、後に
小浜市長に就任)らの並々なる努力や施行
業者の好意的な協力が実を結び、わが国近
代建築学の權威で、文化勲章を受賞された
谷口吉郎氏が、この碑を設計。イタリア産の
御影石を用い、詩集を広げた逆W型の斬新
なデザインで作られています。

山本和夫略年譜

山本和夫は明治40年(1907)、通
教郡松永村門前(現小浜市)で山本文雄
の長男として生まれました。県立小浜中
学校を経て、大正15年(1926)東洋
大学に入学。在学中から「白山詩人」同
人となり、昭和4年(1928)処女詩
集「仙人と人間との間」を刊行します。
同大学卒業後、三省堂編集部に勤めな
がら文学活動を続けます。昭和10年(1935)
には、同人誌「星座」に参加、同誌に連載
した「国木田独歩ノート」で全国同人雑
誌クラブ賞を受賞。「星座」に発表した
評論が反戦との嫌疑を受け、評論家矢崎
弾と共に検挙されます。第2次大戦中
は陸軍報道班員として高見順や豊田三
郎らと南方に従軍します。
昭和20年(1945)、終戦の二時期、
郷里の小浜に帰り、県内の青年を集めて
文化活動を展開しました。
昭和23年(1948)再び東京に出て
作家活動を開始。戦後は児童文学に傾
注し、昭和30年(1955)児童文学雑
誌「トナカイ村」を創刊。昭和36年(19
61)日本児童文学者協会理事長に就任。
多くの作品の中で「燃える湖」は大作
で、第13回小学館児童文学賞、また「少
年詩集、海と少年」はサンケイ児童出版
文化大賞、詩集「シルクロードが走るゴ
ビ砂漠」では「第15回赤い鳥文学賞」を
受賞します。
昭和63年(1988)から平成6年(19
94)までは県立若狭歴史民俗資料館
長を務め、民俗文化の普及発展にも大き
く貢献されました。平成8年5月、多く
の人々に惜しまれて89歳でこの世を去
りました。



明通寺の山門(小浜市門前)

敦賀市立博物館所蔵
逸品絵画誌上展

10

敦賀市立博物館では郷土にゆかりのある作家や師弟関係などでつながる近世・近代絵画を系統的に収集しています。

花鳥図 二幅 絹本着色 宗紫石筆



(右)紅梅双鳥図



(左)白梅鸳鸯図

解説

各幅127.2 横45.0cm

右幅は満開の紅梅に羽根を休めて啼く鵲カササギに対し、岩影から半身をのぞかせて、見上げるつがいの雛鳥を配し、流水に竹や露芝を加えて構図しています。

左幅は懸崖の白梅のもと、岩上には色鮮やかな鶯羽根を誇る雄の鶯と、岩下の水汀に雄鳥を見上げて遊泳する可憐な雌鳥との動静の組み合わせとなっております。

その技法は長崎・沈南齋派特有の勾勒コウリョク（輪郭線を描く）と没骨ボツボネ（輪郭線を描かない）画法を巧みに併用し、設色もまた濃影にして華麗、その細密な用筆と相俟って写実的な花鳥画を描き出しています。

筆者の宗紫石は、本姓は楠本氏、江戸の人、字は若麟、雪溪、雪湖、露草、宗岳なども号しました。長崎に遊学して、南齋派の画家熊代照斐に学び、さらに宝暦8年（1758）長崎に渡来したと伝えられる清の画家・宗紫石（1760没）に師事し、中国風の画名・宗紫石を称するに至った本格派です。

南齋派を江戸に伝え、その画系は子幼宗紫山、孫の宗紫岡にと継承されました。かれの周辺には西洋画の先駆者として有名な司馬江漢や時の老中・松平乗完ら多くの文化人が取り巻いていたといわれています。その作風は写実的な花鳥画のほか、流石墨竹画にも妙技を発揮しました。安永9年（1780）65歳で死去。

シリーズ
ふくいの
伝統芸能

国指定重要無形民俗文化財 睦月神事

清水町
大森区

清水町大森地区に伝わる国指定重要無形民俗文化財の「睦月神事」が今年、4年に一度の正式開催年に当たり、2月14日、睦月神事会館に加茂神社のご神体を奉持し、早朝から夕方にかけて、神輿行列や子供達の華やかな舞や語り囃子と織り交ぜ、区民総参加の大掛かりな神事が奉納されました。

神事の沿革

睦月神事は、約8百年前から同地区に伝わる伝統行事で、年の初めに一年間の農事の諸作業を神前で模擬的に演じ、その年の五穀豊穡、天下泰平などを祈願する予祝行事として伝承されてきました。かつては、旧志津庄(清水町西部地区)・氏子9カ村により、2カ村ずつが組んで定番を決め、毎年交代で大森区に所在する加茂神社で祭事を奉納してまいりました。しかし、時代の移り変わりや後継者不足などの問題から、今では大森地区だけが、4年に一度の2月14日平成11年に完成した睦月神事会館を舞台に区民総出の神事として取り組んでいます。



大きな丸い張物を頭上にかかけ
練り込む「油おしと張りもの」

奉納 農事を模擬し 多彩な祭事

神事は、午前6時の待太鼓に始まり、神社参拝、神輿渡御行列、奉納行事、神輿還幸まで、神事次第に従って約12時間続きます。会館での主な奉納行事を迫ってみました。

明神参り 行列が会場に達すると、ご神体を正面の祭壇に安置し、太鼓打ちを先頭に「エイヤサ」「オウサヤ」の掛け声で、飛子、舞子、太夫を一人宛て若者がはさんで練り込みます。

油おしと張りもの 明神参りの終わった者は板の間で、練り棒の両端に両手をかけ、

交通アクセス



四陣を作つて「エイヤサ」「オウサヤ」と早い掛け声で、会場を3回半廻り、張りもの(5尺位舌、くわい餅子、鯉などを描いたもの)を練り棒で打ち振ります。

華やかな子供の舞 厳かに語りはやす



鳥帽子をかぶり扇子を使って舞う「祝い中(もどき)」

会場の中央、4つの米俵の上に戸板を置いた舞台が設けられ、舞やお囃子が奉納されます。

祝い中(神遊) 中とび2〜5歳の子供2人、ささら6〜9歳の子供4人が、鳥帽子姿で一人ずつ舞台上がり、舞します。舞台周囲に座った観客の若者達は、戸板の間を棒

でたたき拍子をとります。

祝い中(もどき) もどきとは、本舞のまねをすることで、9〜12歳の舞子4人が、一人ずつ、扇子を使って舞を踊ります。

ささら 4人の舞子が、花笠をかぶり、4人同時に舞台上がり、太鼓と笛の演奏に合わせ、ササラを振り鳴らし、十二段の舞が約40数分にわたり連続して舞います。

さいやいや 太鼓打ちに始まり、笛、練り棒で「サイヤイヤ」との囃子に乗って、舞子が一人ずつ、ササラと扇子を使い舞を披露します。

土官取太夫 舞台中央に太鼓を据え、神



大太鼓をはさんで祭詞問答する
土官取太夫

に向かつて太鼓の左、種時太夫、右に牛仕太夫が立ちます。直垂姿、紋付、袴、鳥帽子の装いの2人(今年には共に中学3年生)の太夫は、合い向かい、共に練り棒を掲げ持ちながら、伝承の祭詞問答が行われます。

「土官取太夫」は、4部門の音頭に分かれており、「庄の言い立て」「二代」「三遊」「牛使い」の曲名で語られます。

舞本 では、天下泰平の大うちわや大扇を広げて立て、若者約50人が、太鼓と手拍子のリズムに合わせて「ヤアファイヤ」と囃子たてて踊り、時折役員らを綱上げして祭事を盛り上げていました。

華やかな「ささら」の舞を踊る子どもたち

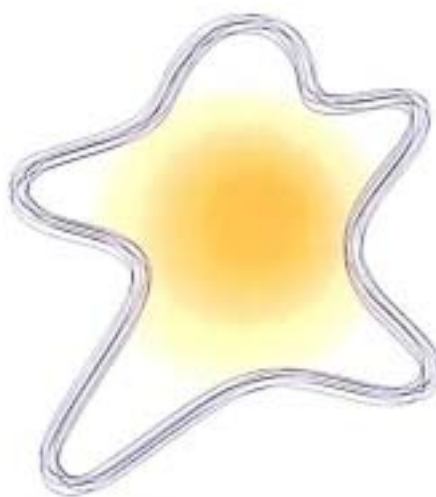
げんでんふれ
あい福井財団

シンボルマーク決まる

最優秀賞 増澤さん(福井)の作品



増澤 寛之氏



人・自然・文化・地域に根ざした
「人のあたたかさ」を表現

財団創立5周年記念事業として募集しました「財団シンボルマーク(原図)」に360点の応募がありました。

1月10日、作品審査会(委員長、松山道明)県デザイナー協会(7名)を開催し審査の結果、福井市米松2丁目のデザイナー増澤寛之氏の作品が最優秀賞に選ばれました。増澤さんは「げんでんふれあい福井財団が人・自然・文化と地域に根ざした活動を願う『人のあたたかさ』という視点で表現しま

した」と作品を解説しています。

財団では、この最優秀作品をシンボルマークとして採用を決定し、今後、財団広報活動に活用し、大勢の人に親しんでもらうことにしました。

なお、今回の公募に、県内高校生の作品が全作品の67%を占める244点が寄せられ、審査会において、この事業への関心度を考慮して特別賞を贈与することにしました。最優秀賞以外の受賞者は次のとおりです。
(敬称略)

- ▽優秀賞 酒井 一(福井市天池町)、佐藤秀紀(福井市つくし野2丁目)
- ▽特別賞 生田翔子(福井高校)、黒川史織(高志高校)

予算のあらまし

平成15年度

事業計画

収入の部



支出の部



総額9,576万円

支出の部では、重点施策を焦点に、予算編成を行い、事業費7,806万円を計上しました。

文化団体等の助成費は2500万円を予定。財団「寄付行為」で規定している事業区分による事業費は次のとおりです。

1. 地域文化の振興事業 ...1,790万円
2. ふれあいゆとりの創造事業 ...1,380万円
3. 芸術鑑賞機会の提供・文化創造事業 ...3,416万円
4. 優れた文化活動への顕彰事業 ...740万円
5. その他の事業(ホームページ・広報誌の発行など) ...480万円

6重点施策

1. 文化団体等に対する助成事業の普及と充実
2. ふくい県民文化祭(分野別フェス)、県内高校文化部活動の育成支援
3. 人に優しいふれあいのある地域活動の推進
4. ふるさと文化賞、ふるさと大賞写真コンテスト等郷土意識の高揚を図る顕彰事業の定着化
5. 魅力ある文化・芸術鑑賞機会の提供事業の充実
6. 親しまれる財団イメージを高める広報・広聴活動の推進

平成15年度の財団事業計画と収支予算は、3月13日に開かれた評議員会及び理事会で決められました。本年度、財団創立5周年を経て、次のステップにスタートする年次と位置づけ、「ふくい」文化の育成・支援など信頼される財団として前進を図ることを基本方針としました。

基本方針
財団創立
5周年

から次のステップへ前進

日英小学生絵画交流展

12/7~15
12/17~26

「くらし」を題材に90点

楽しいアトラクションで開幕

敦賀



楽しいアトラクションで開幕＝敦賀原子力館

財団では、日本とイギリスの小学生絵画交流展を、日本原電、イギリスのBNFL社と共催で、12月7日から15日まで敦賀原子力館、同月17日から26日まで、げんでんふれあいギャラリー（本町2丁目）で開催しました。

この絵画交流展は、両国の

事業所がある地域の小学生が描いた絵画を交換展示し、国際友好を深めてもらうと企画したもので、英国とは3年連続の催しものとなりました。作品展には、敦賀市の5つの小学校（西濃、常賀、松原、音見、中央小）から40点、イギリスの西カンブリヤ地方、セラフィールド近郊の日小学校から50点が出展。「私たちのくらし」をテーマに、日本の夏や花火大会の風景など、イギリス側では、家庭の様子やラグビーなどのスポーツ活動を紹介するなど、それぞれの国の特色を描いた楽しい絵が目立っていました。



国際友好を深めた日英小学生絵画展

今年度の写真展は、例年より展示規模も拡大するなど今年、本県で開催される全国文化祭に備えた内容のある作品展に、会期中、訪れた人々は生徒たちの感性が光る力作に、じっくりと見入っていました。

第23回

県・市町村文協 選抜美術展

11/22
~24

郷土色豊かな作品目立つ 高浜町

県文化協議会と高浜町文化協議会が主催（当財団協賛）した第23回県・市町村文協選抜美術展が11月22、24日まで3日間高浜町中央体育館で開催されました。同展には県内26市町村文協から選抜された絵画、書道、写真、工芸の4部門の優秀作品約500点が展示され、訪れた約850人の人たちは、晩秋を飾るにふさわしい美術展に、じっくりと楽しんでいました。



会場一杯に500点の作品が展示された県市町村文協選抜美術展＝高浜町中央体育館

押し花などの装飾工芸品、131点に及ぶ多彩な作品が展示され、各部門とも、地域における美術活動で練成された自信作揃いで、特に郷土色を前面に出した作品が目立っていました。

第40回

高校芸術祭写真展

11/29
~12/2

本県で開催される全国高校総合文化祭のリハーサル大会となる第13回県高校総合文化祭（第40回高校芸術祭）の写真展（当財団協賛）が11月29日から12月2日までの4日間、福井市美術館で開催されました。展示会場には、17校、123人が出展した173点の作品が、動物、人、風景の3つのコーナーで展示されました。作品は、学校文化祭や高校の校舎、友達などをモチーフにした高校生らしい作品が多く、アングルや空間の使い方など既成概念にとらわれない

若い感性光る173点を展示

福井市立美術館



初日（11月29日）他校の写真作品を鑑賞する高校生ら＝（福井市立美術館）

第5回 ふるさと大賞 写真コンテスト 入賞作品展

2/4-16
21-26

財団では、第5回ふるさと大賞写真コンテスト入賞作品を大勢の人に鑑賞してもらおうと、同展示会を2月4日から16日まで、げんでんふれあいギャラリー（敦賀市本町2丁目）で、同月21日から26日まで、福井市花堂南2丁目・シヨッピングシティ「ベル」で開催しました。

審査会で選考された「ふるさと大賞」「ふるさと賞」「優秀賞」作品（P8・9参照）をはじめ入選28点、佳作28点の計56点の作品を展示しました。

今回の作品公募には「ふるさとの四季」といとなみ」をテーマとしたこともあり、福井県の自然、風景や祭りに加えて、そこにふれあう人やくらしの姿をモチーフにした作品が目立ちました。敦賀・福井の両会場とも初日よりカメラファンなど



入賞作品に見入る人たち=げんでんふれあいギャラリー

「ふるさとの四季といとなみ」に注目

敦賀・福井

多くの人が訪れ、作品の特色や力作にじっくりと見入っていました。

福井ジュニア
フィルハーモニック

5周年公演

12/23

ソリスト戸田さんと共演

福井



戸田弥生さんと共演する福井ジュニア・フィル
=県立音楽堂

「福井ジュニア・フィルハーモニック」の創立5周年記念公演（当財団協賛）が12月23日、福井市の県立音楽堂で開かれました。

同フィルは、弦楽に取り組み小中学生による県内唯一の少年少女オーケストラで平成9年に誕生。今回は5周年の記念定期演奏会で、同員25人に福井交響楽団のメンバーも加わり計58人が参加しました。また、同市出身の作曲家・笠松泰洋

さんが同フィルのために新曲「弦楽のためのティベルティメント・オーガスト・ウインド」を披露したほか、同じく同市出身の国際的バイオリニスト、戸田弥生さんも演奏に加わり、大勢のクラシックファンを魅了しました。同フィルメンバーらとともに戸田さんは、ベートーベンの「バイオリン協奏曲二長調作品61」を演奏。戸田さんのうっとりとする独奏と団員たちのフレッシュな音色に集った約1200人のファンから大きな拍手が送られました。

財団創立5周年記念
「春風のコンサート」

3/1

一流の3奏者 名曲を披露 福井



爽やかなハーモニイを響かせたフルート・チェロ・ハーブの3重奏

福井新聞社・風の森ホール開設1周年と当財団創立5周年を記念した「春風のコンサート」（同社と財団共催）が3月1日、同ホールで開かれました。公演は、国内ではトップクラスのフルート奏者吉岡アカリさん、チェロ奏者の藤岡亮一さん、ハーブ奏者平山菜津子さんがトリオを組み、バロック音楽から近代音楽、さらに日本の歌

など幅広いレパートリーを披露。集った約300人の聴衆は、春風に似た爽やかなハーモニイに魅了されました。

コンサートの前段は、フルートとハーブによるエドガー「愛の挨拶」で幕開け、フルートの大家ジュリアンの「ヴェニスへの謝肉祭」を多彩な技巧に富んだ演奏で披露。また、曲間には楽器の説明や曲の背景などの説明が行われました。後段は、チェロの名曲、サンサーンス「白鳥」をハーブの伴奏で披露、続いて日本の歌「荒城の月」などが演奏され、最後に、トリオでドビュッシー「小組曲」を、また、アンコールに代えて「星に願いを」見事なハーモニイで会場に響かせ、大きな拍手が送られました。

つるが海と風のコンサート

4楽団豊かな音色で魅了

敦賀

2/23

第5回つるが海と風のコンサート「集まれ弦の仲間たち」（主催＝敦賀市音楽・舞台芸術団体連絡協議会、当財団協賛）が2月23日、同市、市民文化センターで開かれました。このコンサートは、一年おきに開いており、今回は、みはまアンサンブル、スズキ・メソッドバイオリン教室、アンサンブル敦賀、京都ソロイスツの四つの楽団が出演、弦楽器の魅力を披露しました。

公演は、3部構成で進められ、第1部では、みはまアンサンブルが、イタリア民謡など3曲を、スズキ・メソッド教室は、パッハのメヌエット第3番など6曲を演奏しました。第2部では、アンサンブル敦賀がモーツァルト「セレナーデ・ノットルノ」



弦楽器の魅力を披露した「つるが海と風のコンサート」=敦賀市民文化センター

をはじめ独奏を交えた4曲を披露。第3部では、京都ソロイスツがサンサーンス7重奏などの純度の高い調べを響かせ、会場は終始、弦楽器のバラエティー豊かな音色に包まれました。

平成15年度財団助成事業を募集

申請期限4月30日(水)

財団では、文化団体等の事業活動を支援するため「財団助成事業取扱規程」に基づいて平成15年度の助成事業を受ける団体を募集しています。

対象団体の要件

1. 福井県内に活動の本拠を置く団体
2. 構成員(会員)が原則として20名以上の団体
3. 平成15年4月現在で、原則として設立2年を経過している団体
4. 営利を目的とせず、明確な会計経理を実施、報告できる団体
5. 特定の政治団体、宗教団体、企業に所属していない団体

応募の方法

- 財団所定の「助成事業応募要領」により「推薦団体」の推薦を受け、助成事業申請書を4月30日(水)まで(申請事業の実施が4・5月の場合は3月31日まで)に当財団宛提出して下さい。
- 申請書のほか、事業計画、予算書など添付していただく書類等がありますので、詳しいことは財団(事務所等は下記のとおり)にお問い合わせ下さい。

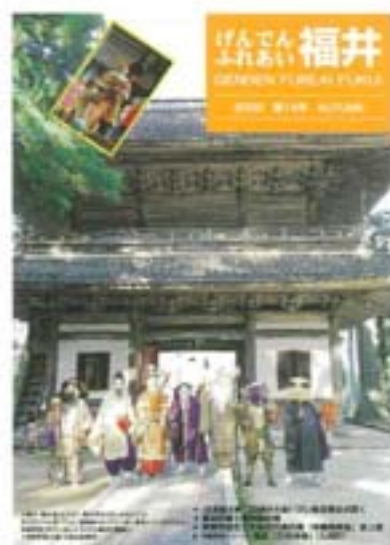
助成団体の選考・決定

助成団体の選考は、当財団の理事、評議員の中から委嘱された「選考委員会」に諮問し、その答申に基づき助成を決定します。助成が決定した場合は、速やかに申請団体と推薦団体に通知します。

愛読者アンケートご回答のまとめ

げんでん 福井第14号
ふれあい

本誌第14号のアンケートに総数27通のご回答をいただき、ありがとうございました。その結果を下表のとおりまとめました。今後も、皆様のご意見をうけたまわり、本誌の充実に努めてまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。



Q：第14号で良かった記事は？

- | | |
|--------------------------|-----|
| 1.「全高紙文祭 03福井」プレ総合同会式開く | 5名 |
| 2.フクイデザインマインドコンペ2002 | 3名 |
| 3.能・狂言を楽しむ会 | 7名 |
| 4.高浜町郷土資料館訪問 | 13名 |
| 5.敦賀市立博物館所蔵品絵巻誌上展(深妻図屏風) | 11名 |
| 6.シリーズ5 福井の文化碑 高見 屋(三田町) | 10名 |
| 7.高校文化活動をたずねて④ 藤島高校囲碁部 | 5名 |
| 8.伝統芸能シリーズ「長鼓・日向神楽(丸岡町)」 | 13名 |
| 9.みけつくに石狭(その2) 御食国と鯖街道 | 19名 |
| 10.情報ファイル | 7名 |

本誌への主なご意見など

- 丸岡町の郷土芸能(日向神楽)を再認識しました。今後もこの種の伝統芸能を紹介してほしい。
- 郷土資料館訪問は良い企画。近くの史跡や見学に値する所を、あわせて紹介してほしい。
- 高校生の部活や今夏の「全高紙文祭・福井大会」を詳しく取り上げて下さい。
- 民俗伝統芸能による町おこしの実体等も紹介したら。
- 「福井の文学碑」の企画、郷土の文学者を知るため、続けてほしい。
- 財団からの助成事業として実施した事業等も紹介してほしい。

財団イベント INFORMATION

朗読と音楽の夕べ	日色ともゑとマリオネット	4/26(土)	福井新聞社風の森ホール	福井新聞社と共催 入場料2,500円
げんでんふれあいコンサート	岩崎宏美&夏川りみ ジョイントコンサート	6/3(火)	敦賀市民文化センター	入場料2,000円
文化講演会	料理家服部幸應氏	6/29(日)	福井市西開発4丁目 福井県自治会館	福井県連合婦人会と共催
夏休みファミリーコンサート	福井交響楽団・ソアーベ 児童合唱団	7/21(月・祝)	福井市・ハーモニーホールふくい	福井県文化振興事業団 主催、財団協賛



財団ホームページ <http://www.Genden.or.jp>

(発行) 財団法人 げんでんふれあい福井財団

〒914-0051 福井県敦賀市本町2丁目9番地16号(日本原子力発電敦賀地区本部4階)
TEL.0770-21-0291 FAX.0770-21-9070